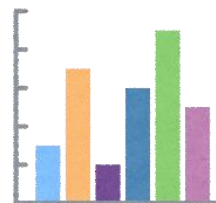


hand in hand

授業実践を紹介します！

特別支援教育に関するアンケート結果を、第3号でお知らせいたしました。研修に関する項目で、興味のある内容として最も多かったのが「障害に応じた学習方法等に関する支援について83.7%（43名中36名）でした。今号では、本校の授業の一コマから、授業づくりや学びの特性に対する手立てについて紹介します。



小单元名「〇〇アンケート～子どもと大人の違いを見付けろ！」

高等部1年数学科 男子4名

<单元計画>

<p>【单元名・指導内容】 「私の〇〇ランキング発表」 ・テーマ選びとデータの集計、整理 ・グラフの作成（棒グラフと円グラフ） ・データの傾向分析、発表</p>	<p>【教科の領域・段階】 特別支援学校学習指導要領 高等部数学Dデータの活用 1段階 ア データの収集とその分析</p>	<p>【学習内容】 ・興味のある題材でアンケートを取り集計する。 ・集めたデータを棒グラフや円グラフで表す。 ・整理したデータから、特徴や傾向を多面的に分析し、発表する。</p>
--	---	---

・単元で学ぶ内容を落とし込む
・学習内容に興味のある事柄を盛り込んで動機付けし意欲の維持を図る
→自作のアンケート、タブレット端末の使用等

・学習活動の順にナンバリングして提示
・一単位時間のゴールを示すことで、集中力の維持と学習活動の理解、学びの安心感を

必要な方略の実践と定着

- ①机上整理で情報量の精選と作業の効率化
②声に出しながら数えることで間違いを事前に回避 など



本時の学習展開 4時/6時

- 1 单元計画の確認
- 2 めあての提示
「データはそろった！
どうすれば子供と大人の
ちがいが分かる？」
※下線部空欄
- 3 本時の学習内容を知る
- 4 アンケート用紙を元に集計作業をする
- 5 集計結果を入力し棒グラフを作成する
- 6 まとめと次時の確認、振り返り
「まとめてグラフに表すと
子供と大人の結果が分かりやすかった」
※下線部空欄

一部を空欄で提示し、引き出したい言葉に思考を焦点化

・個別最適な学び

- ①協働的な学びの合間に個別対応での進度調整、入力方法や表、グラフの読み取りを指導
②「集計」という言葉を何度も用いて、言語理解の定着を図る工夫



単元の学習内容をプレゼンにし、学習のねらいを確認したり、一単位時間ごとの振り返りにも使用したりする



T2は授業において非常に大切な役割を果たしています。本授業内での**教員間の連携**は以下の通りです。

- ・一単位時間の進み具合に合わせて、教具の準備等を行い進行に滞りが生じないようにする。
- ・個の発言や気づきに即時評価をしたりT1に伝達したりし、学習意欲の維持と学習状況の共通理解を図る。
- ・タブレット使用のルールや、言葉遣い・物の受け渡しなどのマナー面の指導を行う。 など



授業者インタビュー☆



Q1 単元構想について教えてください。

A1 既習の内容や時数を元に、表の重要性に気付けるようにしました。また、グラフの基本である棒グラフに指導内容を絞り、実態の幅に合わせて簡単なクロス集計を取り入れるなど、学習に深みをもたせるようにしました。

Q2 授業づくりで最も大切にしていることはなんですか？

A2 的確な実態把握と既知の学習の活用です。また、生徒の興味関心に基づいていることと学習の必然性です。



今回のテーマは、「分かる、できるを実感する授業づくり」

センター的機能や専門家・支援チーム等への依頼により、通常学級の授業参観をさせていただく機会が多くあります。先日訪問した小学校低学年のクラスでは、大型モニターを活用しているほか、担任の先生の指示や発問が端的でわかりやすいという様子が見られました。「教科書の所定の箇所に線を引く」という活動では、学習を苦手とする児童（A児）は、担任の先生の口頭での指示には応じる様子は見られませんでした。しかし、先生はすぐにモニターに、その指示を「見える化」しました。するとA児は、さっとモニターを見て、教科書の指定された場所に迷わず線を引いたのです。また、机の整理に夢中になっていたB児も、モニターを見るなり、線引きに取りかかったのです。モニターに手掛かりが映されると分かっている、そのことが習慣化されているのだなど感じた瞬間でした。A児やB児は、「**自分は、こうすれば分かる**」を実感しているのだと思います。

また、ある小学校では、黒板にノートと同じマス割りのボードが貼られ、児童はその書き方を手掛かりにしてノートを取っていました。こうした、口頭以外の視覚情報を用いた指示は、聞いて理解することが得意な児童にとっては、「**なくても困らないけど、あると便利**」な支援とも言えます。



モニターの活用に関しては、ともすれば映し出して終わりになりがちのことも少なくないと感じます。学習効果を上げるためには、児童生徒の実態を踏まえた活用と評価を繰り返す必要があります。「教育の情報化に関する手引 検討案」（文部科学省2016, 2）には、「児童生徒一人一人に課題を明確につかませるためのICT活用」として、「学習指導を円滑に進めるためには児童生徒一人一人が課題を明確につかむことが欠かせない。そのためにICTが

活用できる。教科書の問題文や図表を拡大提示することで、教師が言葉だけで伝える以上に、児童生徒一人一人がこれから学習する課題を把握することができる。また、自分の演技とお手本を比較できる映像等を見せることで、他者から言われるのではなく自分自身で課題に気づくことができる。（※下線は、強調のために本多が書き加えたものです）」と示されています。こうすれば「分かる」「できる」と児童生徒が実感し、「もっと知りたい」につながる授業づくりを、共に目指しましょう。



相談・見学等の希望がありましたら、御連絡ください。

秋田県立大曲支援学校

教 頭： 大沢 貴子（おおさわ たかこ） 浅沼 和子（あさぬま かずこ）
 教育専門監： 本多 由香（ほんだ ゆか）
 地域支援部主任： 丹波 舞子（たんば まいこ）
 特別支援教育コーディネーター： 佐々木貴子（ささき たかこ） 深谷 ゆき（ふかや ゆき）
 特別支援教育アドバイザー： 高橋 充（たかはし みつる）（大仙市立花館小学校内）

〒014-0072 大仙市大曲西根字下成沢 122 電話：0187-68-4123 FAX：0187-68-4122

部報「hand in hand」や各種依頼様式は、大曲支援学校 HP からダウンロードできます。